

基本方針2 すべての府立高校が魅力を高めあい「入ってよかった」と言われる学校をめざします

重点項目5 特色づくり・再編整備の成果と課題を踏まえた府立高校の充実

【目標】

特色づくり・再編整備の成果と課題の状況を踏まえた府立高校の特色化をさらに進め、多様性を拡大するとともに、中学生の幅広い進路選択を可能とするよう制度改善を進めることにより、府立高校を中学生にとって一層魅力ある「入りたい学校」とする。

【成果（平成21年度末時点）】

- 進学指導特色校、新たな専門学科（体育科）及び教育センター附属研究学校について、平成23年度の学科設置・開校に向け、事業計画にもとづき、予定通りに準備を進めた。
 - ・対象校の公表（6月）
 - ・事業概要等について検討をすすめ、「まとめ」を公表（3月）
 - ・大阪府立高等学校教育課程基準を改正
 - ⇒進学指導特色校「文理学科」について、「学科の目標」や専門教科の標準単位数等を策定

【課題】

- 平成23年度の学科設置・開校に向け、対象校に、施設整備を含む一層の取組み支援を行う必要がある。
- 中学生の幅広い進路選択のため、府民に対して、計画的かつ的確な情報提供を行う必要がある。
- 平成23年度の学科設置・開校後、対象校が真に「入ってよかった」学校になっているかどうかを評価・検証する仕組みを構築する必要がある。そのため、まずは、進学指導特色校について、平成22年度中に事業評価基準を策定する。

【主な取組み（平成21年度）】

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H21 年度実績	進捗 状況	H21 年度実施事業		
①新たな専門学科や専門コースの設置	進学指導特色校など、専門学科の併置校の増加	増加 (H23 年度)	—	対象校 10 校を公表	○	(新) 進学指導特色校 10 校連絡協議会の開催	進学指導特色校の設置に向け、対象校 10 校の連絡協議会を開催し、教育課程等に関する検討状況を集約するとともに、10 校間の連携・交流を推進した。 ・ 4 回開催	②1,000 千円
	専門コース設置校の増加	24 校増 (H24 年度)	—	対象校(摂津高校)を公表	○	(新)「新体育科準備委員会」の開催	体育科の設置に向け、「新体育科準備委員会」を開催し、教育課程等を検討した。 ・ 4 回開催	
	専門コース設置校の増加	24 校増 (H24 年度)	—	対象校 8 校を公表	○	(新) 新コース設置対象校連絡会の開催	新コース設置に向け、連絡会を開催し、教育課程等を検討した。 ・ 1 回開催	
②教育センター附属研究学校の設置	教育センター附属研究学校の設置	設置 (H23 年度)	—	教育内容・実施対象校の公表	○	(新) 準備委員会・作業部会の開催	教育センター附属研究学校の設置に向け、準備委員会や作業部会を開催し、教育課程等を検討した。 ・ 準備委員会 6 回開催 ・ 作業部会 11 回開催	
③特色づくり・再編整備校への支援方策の充実	各特色づくり・再編整備校の教育活動への支援	支援 (H21 年度)	総合学科の拡充 普通科への総合選択制の導入(2校) 全日制普通科単位制高校の設置(1校)	総合学科の拡充、 普通科への総合選択制の導入(3校) 全日制普通科単位制高校の設置(1校)	○	(継) 対象校への支援	対象校の施設・設備を整備し、特色ある教科・科目等の開講に必要な支援を行った。	②124,775 千円 ②0289,664 千円
	改革の進行に伴う成果と課題の把握・検討	成果と課題の把握・検討 (H21 年度)	中学校アンケートを計画	中学校アンケートを実施し、結果をHPに掲載	○	(継) 中学校アンケートの実施	「特色づくり・再編整備」について、府内公立中学校 80 校の校長対象にアンケートを実施した。(回答：70 校)	②1 — ②0 —

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H21 年度実績	進捗 状況	H21年度実施事業		
③特色づくり・再編整備校への支援方策の充実	特色づくり・再編整備校の広報の充実	広報の充実 (H21年度)	パンフレットを作成し、府内全公立中学3年生に配付	改編した新タイプの高校についてHPに掲載	○	(継) 広報の充実	H21年度に開校した4校も含め、すべての再編整備対象校について、タイプ別に分類し、HPに掲載した。	②1 — ②0 1,540 千円
④学校規模の弾力化	普通科の学校規模を弾力化	1学年6～10学級程度 (H21年度)	1学年6～8学級に設定	1学年6～9学級に弾力化	◎	(新) 普通科の学校規模の見直し	平成22年度の全日制の課程普通科の募集学級数を6～10学級と定めた。	②1 —
⑤入学者選抜制度の改善	前期選抜と後期選抜の募集人員の比率の見直し	後期選抜の比率の上昇 (H23年度)	67.7%	64.5%	○	(新) 大阪府公立高等学校入学者選抜の枠組みの改善	平成23年度入学者選抜より、全日制普通科総合選択制の入学者選抜を、前期選抜から後期選抜に移行することを決定した。	②1 —

基本方針 2 すべての府立高校が魅力を高めあい「入ってよかった」と言われる学校をめざします

重点項目 6 幅広い教育ニーズに応える教育内容の充実

【目標】

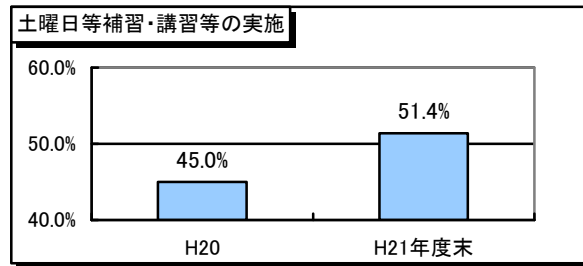
生徒の幅広いニーズや様々な教育課題に対応し、各学校が、先進的な取組みや地域・社会と連携した教育等を推進し、教育内容の充実を図るとともに、その成果を発信し共有化することにより、各学校をすべての生徒にとって「入ってよかった学校」とする。

【成果（平成 21 年度末時点）】

○ 学校提案型の個性化推進事業において、41校において各校の教育課題に対応した取組みをそれぞれ進め、その成果を他の学校と共有した。

分野	校数	特色ある取組み（例）
人材育成	5校	将来構想委員会を中心とした教育活動の活性化の推進と教職員研修の充実
学力向上	6校	学習到達度別の基礎数学教材の開発と各種検定の合格をめざした取組み
豊かな感性	7校	地域と連携した里山保全等のボランティア活動などを通じた自然環境教育
キャリア教育	7校	50名を超える同窓生との対話によるコミュニケーション能力の向上と高校生活への意識改革
学習ツール	6校	「楽しい授業」「わかる授業」をめざした電子黒板の活用法の研究
カリキュラム開発	7校	補習・講習の充実と土曜日の活用、学校図書館の有効活用
多文化共生・国際交流	3校	地域コミュニティを活用した留学生との交流を行うなどの国際理解教育

- 土曜日等の補習・講習等を行う学校が50%（目標）を上回った。（75校）



※府教育委員会「土曜日等の活用状況」調査

- ものづくり教育の活性化に向け、提案、指導・助言、支援、評価を行う組織として、学識経験者、経済団体、行政等からなるものづくり教育コンソーシアム大阪を創設した。

【課題】

- 学校提案型個性化推進事業、科学教育、ものづくり教育等を推進し、その成果の共有化を図ることにより、教育課題への対応を一層充実する必要がある。そのため、今後、各学校の先進的な取り組みやその成果を踏まえた、がんばっている学校を支援する仕組みづくりに取り組んでいく。

【主な取組み（平成21年度）】

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H21 年度実績	進捗 状況	H21 年度実施事業		
①学校の個性化推進	学校提案型の個性化推進事業により府立高校の一層の個性化の推進	個性化の推進 (H21 年度)	—	41 校指定	○	(新)「学校提案型の個性化推進協議会」の開催	推進協議会を開催し、情報共有を図るとともに、第2回推進協議会では、すべての府立高校の教育の質の向上を図るため、成果発表を行った。 ・2回開催	⑳14,000 千円
	理数教育の拠点化	拠点化 (H21 年度)	SSH 指定府立校 5 校	SSH 指定府立校 6 校	○	(継)サイエンス・スクール・ネットワーク(理数教育先進校のネットワーク)の充実	大阪府の理数教育の裾野の拡大を図るとともに、国際社会で活躍できる科学者・技術者の基礎を育成するため、SSH の研究成果の普及や、生徒・教員の交流などの取組みを実施した。 ・大阪府合同発表会の開催 12 校(発表)	㉑ — ㉒ —
	国際科学オリンピックの入賞	入賞 (H25 年度)	参加応募者 35 名 全国大会入賞者 4 名	参加応募者 111 名 全国大会入賞者 2 名	○	(新)スーパーインストラクター招へい事業	各界で活躍するアーティストやアスリート等を招聘した。 ・7校 27 件招聘	㉑4,204 千円
	将来、日本を代表するトップアーティスト・アスリート等の育成	育成 (H21 年度)	—	27 件のスーパーインストラクターを招聘	○	(継)教員特別業務手当の支給	土曜日等に補習・講習を行った教員に対し、校務の状況により勤務の振替え等が困難な場合、教員特別業務手当を支給した。	㉑ — ㉒ —
②土曜日等の補習・講習の支援	補習・講習を必要とするすべての学校の支援	支援 (H21 年度)	補習等を実施する学校の割合 66 校 75 校		○	(継)教員特別業務手当の支給	土曜日等に補習・講習を行った教員に対し、校務の状況により勤務の振替え等が困難な場合、教員特別業務手当を支給した。	㉑ — ㉒ —

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H21 年度実績	進捗 状況	H21 年度実施事業		
③ 高大連携 の推進	府教育委員会と 連携協力協定を 結ぶ大学の増加	倍増(28 大学) をめざす (H25 年度)	15 大学	18 大学	○	(継) 大学コンソ ーシアム大阪と の連携	大学コンソーシアム大阪の高 大連携部会等で、高大連携につ いての協議等を実施した。(2 回)	⑳ —
	高大連携の実施	全府立高校を めざす (H25 年度)	70%	70%	○	(継) 府立大学と の連携協議会	府立大学と教育委員会の連携 協議会(2回)を開催するとと もに、府立大学連携講座・出張 講座の案内を府立学校に配付(2 回)	㉑ —
④ 中高一貫 教育の拡大	新たな地域での 中高一貫教育の 実施	新たな地域で の実施 (H23 年度)	— (能勢地域で 実施)	設置地域を 公表	○	(新) 柏原地域連 携型中高一貫教 育推進協議会の 開催	中高一貫教育の内容が充実す るよう、教育課程、教職員の交 流、中高合同教育活動などにつ いて、幅広い見地から検討を行 った。 ・2回開催	㉑ 重点項目 5の①・② に含まれる
⑤ ものづく り教育をは じめとした 産業教育の 活性化	府立工科高校の 活性化	活性化 (H22 年度)	—	ものづくり教 育コンソーシ アム大阪を創 設	○	(新) ものづくり 教育コンソーシ アム大阪運営指 導委員会の開催	コンソーシアムの中核となる 運営指導委員会を開催し、今後 の進め方や工科高校でのものづ くり教育の現状等について協議 した。 ・2回開催	㉑ 240 千円
	公立大学法人大 阪府立大学へ移 管	移管 (H23 年度)	—	「大阪府立工 業高等専門学 校改革基本計 画」の策定	○	(新) 「大阪府立 工業高等専門学 校改革基本計 画」の策定	移管に向けた、今後のあり方、 具体的事項、実施時期を盛り込 んだ計画を策定した。	㉑ 500 千円
	農業教育分野に おける農業高校 の拠点的功能の 充実	充実 (H22 年度)	—	ネットワーク の検討	○	(新) 農業教育ネ ットワークの構 築の検討	農業系専門高校を拠点とした 中学校との農業体験等の実施に 向けたネットワークの構築を検 討した。	㉑ —

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H21 年度実績	進捗 状況	H21 年度実施事業		
⑥ 定時制・通信制の活性化	定時制教育の充実	充実 (H21 年度)	—	定通チャレンジ事業（国事業）において3校を指定し研究	○	(新)定時制・通信制チャレンジ協議会の開催	定時制・通信制チャレンジ協議会を開催し、多様なニーズに対応した定時制・通信制課程の改善・充実に資する実践研究を実施した。 ・研究委員会を7回実施	国事業（府予算なし）
	聴講講座（オープンスクール）の開設	全定時制・通信制 (H21 年度)	5 / 18 校	18 / 18 校	◎	(拡)定時制・通信制オープンスクール（聴講制度）	通常の授業のほか始業前授業や土曜開講を活用して府立の定時制・通信制設置校全校で聴講講座を開設した。	⑳ 1,200 千円 ㉑ —
	通信制の機能強化	機能強化 (H21 年度)	定通併修制度の実施	通信制の教育環境の整備、拡充・機能強化について研究	○	(新)通信制の機能強化に向けた研究の実施	桃谷高等学校の行う通信教育について「協力校」（夜間定時制及び多部制単位制Ⅲ部）を設けて定通併修制度を実施するとともに、通信制教育の機能強化等に向けた研究を行った。	㉒ —

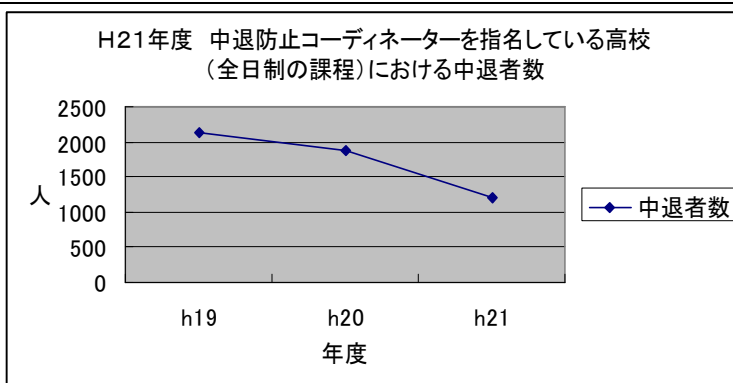
基本方針2 すべての府立高校が魅力を高めあい「入ってよかった」と言われる学校をめざします

重点項目7 生徒の「自立・自己実現」の支援

【目標】

生徒の「自立・自己実現」を支援する取組みを充実し、生徒が安心して学べ、夢をかなえることができる学校づくりを進めることにより、生徒の学校生活における満足度、自己の成長についての充実感を向上させる。

【成果（平成21年度末時点）】



※府教育委員会調べ

○ 中退防止の取組みにおいて、教員が生徒理解を深め、生徒の居場所づくりや自尊感情の向上等を図るため、中高連携、人間関係づくり、基礎学力の充実に重点的に取り組んだ。その結果、平成21年度及び22年度に中退防止コーディネーターを指名している全日制の高等学校30校における中退者数の合計は、大幅に減少した。

年度	H19	H20	H21
中退者数 (人)	2134	1873	1204

(H19より43.6%減少)

【課題】

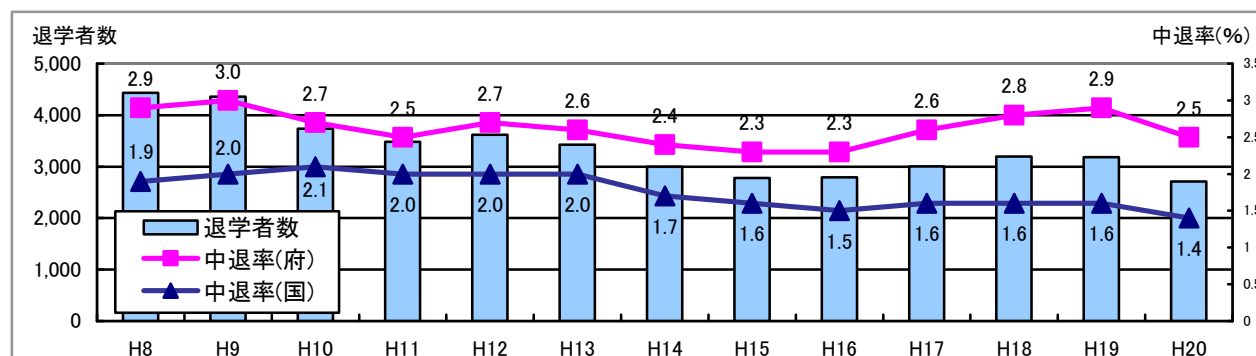
- 中退の課題が集中する学校において、中退者をさらに減少させていくために、中退防止コーディネーターのネットワーク化を進めるなど、より一層の取組みの充実、定着を図る必要がある。
- 府立高校における支援教育をより一層推進する必要がある。
 - 支援教育コーディネーターを指名している学校 (39%) 目標：平成24年度 100%
 - 個別の教育支援計画を作成している学校 (22.6%) 目標：平成25年度 100%
 - 個別の指導計画を作成している学校 (30.8%) 目標：平成25年度 100%

【主な取組み（平成21年度）】

項目		目標 (目標年次)	H20年度実績	H21年度実績	進捗 状況	H21年度実施事業		
①人権教育の推進	重点項目 30①参照							
②府立高校における支援教育の推進	支援教育コーディネーターの指名	全府立高校 (H24年度)	38/148校	57/146校	○	(継)高等学校における支援教育コーディネーター養成研修の実施	高等学校において支援教育を推進していく上で必要とされる実践力向上のための研修(支援教育コーディネーターの役割、校内支援体制の構築、個別の教育支援計画及び個別の指導計画作成と活用についての内容を含む)を行った。 ・9回実施、50名参加	⑳ ー
	校内委員会の設置	全府立高校 (H24年度)	90/148校	108/146校	○			
	個別の教育支援計画の作成・活用	全府立高校 (H25年度)	7/148校	33/146校	○			
	個別の指導計画の作成・活用	全府立高校 (H25年度)	14/148校	45/146校	○			
③生徒支援体制の充実	スクールカウンセリング・スーパーバイザー(SCSV)の効果的な配置	効果的な配置 (H21年度)	30/165校	30/162校	○	(継)府立高校教育相談体制整備事業	臨床心理士をスクールカウンセリング・スーパーバイザーとして各学区に6～10名配置し、教育相談活動に対する支援を行った。 ・学校配置26校、巡回配置4校(162校中)	㉑31,858千円 ㉒35,940千円
	教育相談研修生の受入れ	5大学20名の受入れ (H23年度)	ー	2大学10人	○	(新)教育相談研修生の受入れ	臨床心理士をめざす大学院生の実習を受入れ、学校における教育相談の活動を支援した。	㉑ ー
	学校・警察相互連絡制度の充実	充実 (H21年度)	府立学校191校で連絡担当者を指定	府立学校187校で連絡担当者を指定	○	(継)学校・警察相互連絡制度	学校で連絡担当者を指名し、非行等問題行動の防止及び安全確保について相互に連絡を行った。	㉑ ー ㉒ ー
④キャリア教育の推進	重点項目 29③参照							

項目		目標 (目標年次)	H20 年度実績	H21 年度実績	進捗 状況	H21 年度実施事業		
⑤ 中退防止の取組み	中退の防止	中退率 2.0% をめざす (H25 年度)	2.5%	調査中	○	(新) 中退防止 コーディネーターの指名	中退の課題が集中する学校 (41 校) において、H21 年度より、中高連携の窓口や校内組織の中核を担う中退防止コーディネーターを指名した。 ・ 41 名指名	⑳ —
						(新) 連絡協議会 の開催	中退防止コーディネーターのネットワーク化を図るため、H21 年度より、連絡協議会を開催し、各学校の課題や効果的な取組み情報の共有化を図った。 ・ 3 回開催	
⑥ 奨学金指導・支援の充実	奨学金など制度の周知・啓発の充実	周知・啓発の充実 (H21 年度)	周知・啓発の実施 (日本学生支援機構奨学金 申請者数： 28,729 人)	周知・啓発の実施 (日本学生支援機構奨学金 申請者数： 31,552 人)	○	(継) 奨学金制度等の周知や相談の支援	生徒・保護者に対する奨学金制度等の周知や相談の支援を行った。 ・ 奨学金制度等説明会の実施 生徒・保護者対象 1,894 名参加 ・ 奨学金担当教職員研修の実施 361 名参加 ・ 市町村の進路相談員への研修のべ 72 名参加 ・ 電話相談・個別相談会の実施 電話相談 413 件、個別相談 248 名	⑳ —

【参考となる指標】 ◆中退者数と中退率の推移（府立高校全日制）



※文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」